



Subaru

男声合唱団

ニュース№464

'14. 5. 20

合発曲をレッスンしました

5月16日

□5月16日(金)の定例レッスンは、奥村さんの体操と千秋さんのヴォイストレーニングに始まり、本並先生の指揮、久しぶりの静さんのピアノで、今年の合唱発表会曲である「降りつむ」と「街を返せ」をみっちりレッスンしました。参加は全31名でした。

新譜「労働者の合唱」他をレッスン

5月20日

□5月18日(日)の定例レッスンは、佃さんの体操と千秋さんのヴォイストレーニングに始まり、伊藤副指揮者の指揮、森さんのピアノで、「歌劇 沖縄」のなかから「労働者の合唱」、本並先生の指揮で合発曲の「降りつむ」また伊藤副指揮者に戻って「街を返せ」をレッスンしました。参加は久しぶりに腰痛治療の晴れ間を縫って参加の米川さんを交えて、全30名でした。



□「労働者の合唱」は、過去に昂に在籍してこの歌劇の作曲家たちの一員である三条場康則さんから、「ぜひ昂で歌ってほしい」と強い推薦、要望があったのを受けての選曲で、題名どおりの力強い闘いのうたですが、皆さん如何でしたか。ステージで歌ったり聞いたりした方々もかなりおられるようでした。

・・・歌劇「沖縄」・・・抜き書き

1966年。作曲家木下そんきを含む第3次うたごえ代表団が沖縄へ渡り、伊江島の野里竹松と出会いました。

野里は伊江島で起こった米軍の土地取り上げなど、勝利者という名での横暴の限りに反対して、沖縄に伝わる陳情口説をもって沖縄全土に訴える行脚を行った事実を話し、陳情口説を歌いました。

切々と響く陳情口説は現代の闘う吟遊詩人の姿をほうふつとさせ、木下はこれをオペラにして伝えたいと考えました。ここから、歌劇『沖縄』の運動が出発しました。

同年8月、日本のうたごえ実行委員会は、うたごえ運動20周年記念事業として、歌劇『沖縄』制作上演運動を起こすことを決定。67年、日本のうたごえ祭典でプロローグの合唱が演奏され、運動の第1歩が踏み出されました。

68年、台本初稿。全国の台本読み合わせ活動が進められ、沖縄の実態が伝えられるとともに、台本への意見が、職場から地域から学園から次々と寄せられてきました。

作曲の中心になったのは、木下そんき・林学・松永勇次・大西進・長谷谷・高平つぐゆき・三条場康則で、作曲家外山雄三の協力のもとに書き上げられていきました。

こうして歌劇『沖縄』が生まれ、69年日本のうたごえ祭典で、井上頼豊指揮で初演されました。70年に第1回全国公演(外山雄三・村川千秋・守屋博之指揮/八田瑞穂演出)、72年に第2回全国公演(山田一雄・守屋博之指揮)を実施。全国約50カ所、10万人余の聴衆が集まり大成功を収めました。

ニクソン政権は69年に沖縄返還を承認。72年、日本に復帰しました。(藤本洋)

※うたごえ新聞95年10月23日号より

□「団内コンサート」は今日がエントリーと楽譜の締切日でしたが、提出がそろっていません。幹事さんが、困っています。至急提出してください(エントリーしない人も全部です)。□リハは8月10日に決定です。